

1 食肉卸売市場と連携した口蹄疫等家畜伝染病対策（第2報）

山城家畜保健衛生所

○森田誠 藤野日出海

【取組の背景】京都市が開設すると畜場併設の食肉中央卸売市場（以下、市場）は、全国から牛や豚の搬入があるとともに多種多様な関係者が出入りする家畜防疫上非常に重要な施設であるため、当所では市場関係組織と連携して、口蹄疫等家畜伝染病対策に取り組んでいる。この度、当該市場で畜産物の海外輸出も可能となる新施設の建替再整備が行われ、平成28年2月の工事開始から平成30年4月の本格稼働までの工事期間中の衛生対策等が新たな課題となった。【取組内容】①市場管理、市場運営、と畜検査機関等の市場関係組織と家畜保健衛生所で構成する対策委員会を継続的に開催し、各時点における課題と対策について検討した。②工事の進捗に伴い、衛生管理区域の変更、車両・人の動線の変更及び消毒体制を確保した。③市場関係者を対象とした口蹄疫等家畜伝染病の研修会、市場内で口蹄疫を疑う家畜が発見されたことを想定した机上及び実地防疫演習を実施することにより、防疫対策の習熟と防疫意識の向上を図った。【まとめ】対策委員会を中心とした取組により、工事期間中においても万全な衛生対策を実施することができた。今後は、新施設の本格稼働に伴い、搬入地域の拡大による家畜伝染病の発生及びまん延リスクが高まることが予想されることから、関係組織との連携をより一層強化し、より高度な衛生対策の確保を目指したい。